



# 朝礼 今日のひとことコーナー



人事の異動がある度、自分はご利用者様だけでなく沢山の職員と出会ってきたのだなと思います。私の星に飯を見るや否やその量を揶揄して「野球部か」と言われたり、真剣に話を聞いているのに「いや、そんな顔しているけどこれ面白い話やから」と言われたり、出勤したてなのに「夜勤お疲れ様」と冗談抜きで言われたり、清華苑の職員はいつも笑わせてくれる人ばかりです。

けれど、それと同時にご利用のこととなると真摯で、私にはない視点で物事を捉えることが出来る人が沢山います。そこに先輩や後輩、上司や同期という肩書きは関係ありません。勉強になると同時に己の気付きの少なさに反省する日々です。そして、そういった刺激を受けられることをいつもありがとうございます。

話は変わりますが、古典日本三大隨筆の一、鴨長明が記した方丈記の冒頭に「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」とあります。現代語訳では「流れゆく河の流れは絶えて無くなることがないが、それでいて、流れる水の一つ一つは同じ水ではない。」とされています。職場になぞらえても、同じことが言えるのではないかと思います。

昨年今の今頃と現在とでは職員の配置が大きく「流れ」、変化していますが、ご利用者様に寄り添いケアを提供するという「河」は如何なる状況下においても私達にとって不变のものです。

今年もご利用者だけでなく、様々な職員と出会うことになると思います。これまで働いてきた職員や今現在と共に働いている職員としてきたように、まだ見ぬ職員一人ともよりよい「河」を築き上げていきたいと思います。

(介護員 宮崎眞子)

(介護主任 池内玲夫)



## ★編集後記★



広報誌「はな華」をお読み頂きありがとうございます。皆様いかがお過ぎででしょうか。

職員の紹介や、観桜会の写真特集など春を感じる盛り沢山の内容になっています。

新型コロナウイルスの影響により、まだまだ深刻な状況が続く中ではありますが、大きな桜の様に明るく元気にご利用者と共に過ごしていきたいと思っております。今後共宜しくお願い致します。

## 清華苑だより



PHOTO:2021/3/31 屋上テラスで開催された観桜会でのワンショット。春の陽気の中、楽しそうに会話をされているお二人。

皆さんは、悩みはありますか。一年前の悩みを覚えていますか。

有名な実業家「斎藤ひとり」さんという方がいますが、その方は講演会に来た聴衆千人に「年前に自分が何に悩んでいたか覚えていましたか」と尋ねたところ、「一人でも覚えている人はいなかつたそうです。

斎藤さんは曰く私たちが悩んでいることも一年後には無くなっている事が殆どだそうです。

今も一秒一秒時を刻んでいます。時を刻むことに悩みは自然消滅し始めています。時間が自分の味方になってくれていて、

かと思うと、あの煩わしい時計の力チカチという音も、悩みを小さくして

くれているのかもしれません。

(介護支援専門員 前川真弓)

私の遊びを見て友達のお母さんから母親に「うちの子とは遊ばない下さい。危ない事はさせないで下さい。」と注意されたそうでした。

この話を母親から聞いたのは20歳くらいの時で、何故その時に怒らなかったのか尋ねると、「だって同じ年の子より運動神経が良かつたら」と笑いながら言つていました。いやそもそも知れませんが、友達の親からしたらまたもんじゃないと思します。

親はいつまでも子供の小さい時の思い出を鮮明に覚えているんだなと思いました。最近家を買いましたが、母親はコロナの影響もあってなかなか呼べない状況です。ご利用者も面会が中止となり、寂しい思いをされていると思います。自分たちが家族になる事は出来ないです、ご利用者が安心して安全に過ごせるようしっかりサービスを提供しようと改めて思ってくれた母親からのメッセージでした。

(生活相談員 竹本菜名)

# 新年度を迎えて思うこと

施設長 池田 昌弘

桜の花とともに新しい年度を迎えて頂きました。しかし、今年度も新型コロナウイルスの影響で非常事態宣言が出されるような状況です。このような状況でみなさまはいかがお過ごしでしょうか。

何年か前に、大学時代の恩師である山内元教授のお家にお参りに行ってきました。在学中、よく先生の部屋で二人で話をしながら、電子工作のため半田にてを握り、一緒に時間も作業しました。中小企業向けの研修会や実習に同行して講師や助手をさせて頂きました。先生の勧めと指導の下で、初めての学会発表の直前にネクタイが曲がっていると直して下さった先生の手が震えているのを見たせがけ緊張が解けたのを覚えています。先生の家に食事の招待を頂くことが何度もありました。在学中に私が請け負ったプログラムの仕事で行き詰ったときに、徹夜で解析をして頂き、急場をしのぐことができたのも先生のお陰です。

私は小さい頃から母には厳しく育てられる中で、自分の取った行動を母から信用されることがありました。なかつたのですが、山内先生には様々な状況で人を見れば信じがたいことでも少しも疑わずに信じもらいました。自分が救われることが多々あり、人を信用することの素晴らしさや人から信用されることのありがたさについて身をもって教えて頂きました。その後、就職してから年に1度会社からリクルーターとして大学の先生の講座を訪問していました。私の結婚式にも来賓として参加頂きました。5年前に大学の同窓会に参加したときに、久しぶりに再会して、話が弾み、清華苑に見学に来て頂くようになりました。当時は先生の運転で夫婦で施設に来て頂きました。岩西相談員（当時）と共に施設見学をして頂きました。

また、見学の最後の方で先生は足腰に力が入らずケアハウスの見学時に岩西相談員が気力をかせて車椅子を持ってきましたが、頑なに辞退されました。その時以来気にはなっていましたが、忙しさに紛れてそのままになっていました。

ところが、「喪中につき新年の挨拶は」のハガキが届き、2月に亡くなられていたことを知りました。慌てて電話して、親友と共に姫路の家まで訪問致しました。先生の奥様から話を聞く中で、足腰が弱っているのは自己リハビリで何とかなると頑なに病院受診を拒否されていたのですがないよ悪くなり受診すると難病指定の神経性の病気ということが分かり1年ほど入院されたそうです。その後、病院で治療することがなくなり、1ヶ月ほど自宅に入所した後に亡くなられたそうです。サ高住に入所するときに「池田君の施設に入るんだ」と言われていたそうですが、奥様が頻繁に面会に行けないからという理由で実現しなかったそうです。もっと先生との連絡を頻繁に取るべきであったと後悔しきりです。

人が生きるとは、毎日の暮らしの中にあるということだと強く思います。ところが、毎日の暮らしの中に、病気や事故が突然やってきます。日々の努力とはまったく別のところで訪れます。コロナ感染症の全世界的流行の中で、よりその事を身近に感じる事も多くのなった気がします。命のはかなさを感じるとともに、それだけ何気ない毎日の暮らしの1日1日が大切であるとも考えます。

地域のみなさま、至らぬところも多々あると思いいますが、その都度、ご進言を頂けましたらありがたいです。今年度もどうかよろしくお願ひいたします。



## 医務室だより

皆さんがいかがお過ごしでしょうか。

風香る新緑の気持ちのいい季節になりました。めぐりくる季節とは裏腹に3度目の緊急事態宣言となり、日々の生活は増え窮屈に感じられる今日この頃ですが、一人一人の行動や感染対策が、医療のひ迫や感染拡大を防止できるのですから、みんなで取り組んでいって欲しいと切に願っています。

さて在宅時間が増えてきたことで太ってしまったという話をテレビでも私の周りでも良く耳にしますが、私もその一人です。以前は法人の筋トレサークルのタイアップをしたり、夜に歩く運動をしていましたが、最近は全く何もしていない上に、やる気さえ無くなつてしましました。

そんな時、音楽に合わせて運動をするユーチューバーが某テレビ番組で取り上げられており、見入ってしまいました。実は私もちょうどその動画が流行っていた時には、毎晩運動をしていたのですが、自此から自然消滅していました。ただ、その動画の視聴者は数ヵ月後10kg以上減量していたという驚きのコロナ禍の中で仕事をテレワークが進み、仕事関連の研修もリモートとなり、生活が一変しました。余暇も奪われ楽しみも減ったのも事実です。ただ色々

なことを気付かされたこともあるでしょう。コロナが収束し、感染対策を必要としない生活が訪れた時何をしたいですか。

その為に今は何を必要としますか。

いつか必ず来るであろう平穏な未来に向かって、今は心も身体も準備期間だと思って、自身を見つめ直し、心穏やかに過ごしていって欲しいと思っています。

（看護主任 大島さおり）



# 新入職員が 入職しました。

今年の入社式も満開の桜が新入職員を迎えてくれました。思えばこの一年はコロナ禍の影響で、思うような交流ができませんでした。オンラインによる交流会が続く中、初めて全員が顔を合わせられたのが入社式という異例の門出となりましたが、入職時の合同研修を経て、目に見えてお互いの距離が近くなっていく様子に安堵しました。これから思う存分、同期入社の絆を深めていってもらいたいです。特別養護老人ホーム 清華苑に配属された8名の新入職員をご紹介します。

採用担当  
田村智之



YouTube



木村 海誠

私の自慢  
マイベース

自己PR  
今まで経験していない「福祉」の世界に挑戦しています。未経験でも立派な介護員となるよう頑張ります！！これからも宜しくお願ひ致します！！



上本 健

私の自慢  
すぐ寝る事ができます

自己PR  
私は今年の新入職員の方より、約半年程早く特養で働かせて頂いていますが、この4月から気持ちを改め、日々勉強し頑張っていきますので、宜しくお願ひ致します。



山口 領太

私の自慢

継続力

自己PR  
趣味は筋力トレーニングです。何か目標を設定する事、そこに向かって努力する事が大好きです。仕事でも常に目標を作り教わり、応用を利かせていけるように頑張ります。



西村 涼

私の自慢

身長と若さ

自己PR  
説明されたことを直ぐに実践できます。学生時代の部活でも実践してきました。OJT期間で基本を教わり、応用を利かせていけるように頑張ります。



大本 啓太

私の自慢  
楽器の演奏

自己PR  
広島県出身で、未だに兵庫県の事は詳しくありません(笑)介護についての知識は乏しいですが、精一杯頑張りたいと思います。宜しくお願ひ致します。



小川 俊亮

私の自慢  
骨太

自己PR  
明るく元気で粘り強い性格です。小さい頃から音楽をしていたので、音楽が大好きです。至らない所は沢山あると思いますが、精一杯頑張ります。宜しくお願ひ致します。



安達 莉奈

私の自慢  
どこでも寝られます

自己PR  
どんな時でも笑顔を絶やすず、ご利用者の気持ちに寄り添える職員になれるように、私らしく一生懸命に頑張りますので宜しくお願ひ致します。



北野 里奈

私の自慢  
両利きです

自己PR  
私はスーツとジブリアニメが大好きです。沢山の方とお話ししたいと思っています！ほっこりできる笑顔でコミュニケーションが出来るよう心掛けさせていただけます。



# STAFF VOICE

## スタッフボイス

「」利用者の関わりで自分を必要とされる言葉はとても嬉しい思います。

あるご利用者Aさんの関わりをお話します。Aさんは片麻痺がある方でした。そして、新人職員に対応される事を望んでおり、入職したての高校で介護を学び入職した私がうすれば、今までの人生の中で一番の挫折といつてもいいらしいショックでした。しかし、私は生まれながらにして負けず嫌いという性分でもあり、どうしてもその方に心を開いてもらいたい一心で先輩の関わり方やAさんの趣味などを調べて試行錯誤で対応していました。

数ヶ月経ったある日、いつものようにケアをしているとAさんから急に「いつもありがとう」と初めて言われた時、私は涙が出そうなのを堪えて助かりました。今まで心を開いてくれてなった事にこんなにも救われるとは思っていませんでした。

その日は、家に帰るなりすぐに家族に報告したことを感じています。私自身、負けず嫌いでそこで諦めなくて良かったと初めて思いましたし、学校で学ぶことが全てではない事だと色々な経験ができました。



\*エピソードに紹介されているご利用者と写真に映されているご利用者は別の方で関係はありません。

### 介護リーダー 鎌田 純輔 KOUSUKE KAMATA



### 介護スタッフ

#### 明松 葵 AOI AKEMATSU



\*エピソードに紹介されているご利用者と写真に映されているご利用者は別の方で関係はありません。

入職してから毎日の業務をこなす事に一杯で、中々ご利用者と関わる事が少なく、世間一般で言われている「介護の仕事は大変な仕事」というのはこういう事なかと最初は思っていました。

1年が経った頃、私はあるご利用者との関わり方が分からず、あまり深く関わる事が出来ていませんでした。だんだん認知症のご利用者への対応も慣れ、S様と深く関わるようになった頃にはターミナル期に入り、看取りの対応となっていました。

最初の頃は認知症のご利用者との関わり方が分からず、あまり深く関わる事が出来ていませんでした。その時は手を握り見守る事が出来ませんでしたが、S様のおかげで「ご利用者の人生の最期に関わる事が出来る素晴らしい仕事だ。」と誇りを持つ事が出来ました。

S様は身寄りもなく私達職員が最期に関わる事が出来る唯一の存在でした。その為少しでも最期まで寄り添いたいと思いました。その時は手を握り見守る事が出来ませんでしたが、S様のおかげで「ご利用者の人生の最期に関わる事が出来る素晴らしい仕事だ。」と誇りを持つ事が出来ました。

最後に立ち会うことは出来ませんでしたが、S様との関わりは私にとってとても大切な時間になりました。今でも忘れることが出来ません。S様には本当に感謝しています。

未だに収束の気配が感じられない新型コロナウイルスの影響で心配な気持ちが常に頭の片隅にあるような気がします。思い返せば第一波と呼ばれた約1年前はとにかく目の前のやるべきことに精一杯で周囲を見渡す余裕はありませんでした。

しかし、時間が過ぎていく中で、前向きに取り組んでいる人達や企業の情報が目に留まるようになってきて、法人内でも徐々に「確かにできないことも増えた。でも今だからこそできることもあるのではないか」という雰囲気に変わってきました。

この利用者ご家族とのつながりでは、対面による面会が難しくなったのでオンライン面会やお手紙、ハガキのやり取りを始めました。新卒採用の活動ではオンラインによる説明会や交流会を開催し、職場の様子を伝えるため

（総務部長 田村智之）

### 総務部長 田村智之のコラムコーナー \*縁と円と苑\*

#### コロナ禍「道をひらく」松下幸之助に学ぶ



にユーチューブの「清華苑チャンネル」へ様々な動画を配信しています。特に『えがおの芽 清華苑』は再生回数が1万7千回を超えていました。

またコロナ禍を象徴する取り組みとしてシトラスリボンプロジェクトがあります。愛媛県の有志から始まった「コロナによる風評被害を無くそっとする運動ですが、法人としても早くから賛同して取り組んでいます。

そしてこの1年間で新型コロナウイルスに関連する取り組みについて、神戸新聞社に3度掲載されました。「今だからこそできるこそ」を評価していただいたのではないかと思っています。

さらには、法人内のICT化が進み労働環境も大きく改善しました。組織改革も進みました。活字が苦手な私が何度も読み返している松下幸之助さんの「道をひらく」にこんな節があります。



ケアハウスのご入居者が作られたシトラスリボンを高丘中学校の卒業生へプレゼントしました。

